

＜平 29 年度 事業計画 自己評価(総括)＞(案)

1. 基本方針	
平成29年4月から社会福祉法が改正される。評議員会の設置をはじめ、新たな制度改革に取り組むこととなる。法人全体の円滑な運営の基礎を固めると共に、平成26年度から取り組んできた「社会福祉法人湘北福祉会 中長期計画」の3年間を振り返り、引き続き、地域のニーズに沿いつつ、施設の強みを生かした事業を展開する。	
2. 事業活動に対する基本的な姿勢	
1) 施設経営	
<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度からの3年間は、「実施事業の現状維持を原則」という方向性の基、保育の質を高めると共に、当園施設運営の特徴である「地域の子育て拠点となる総合的な保育所運営」の強化に取り組んできた。今年度は、組織力の強化と人材の育成を目指し、新たな人事制度に取り組むと共に、園の「理念の4つの柱」(1)～(4)に沿って、特に保護者支援の充実など、施設の特徴と強みを生かした実践を行う。 	
◆重点的に取り組む事業について	
(1) 保育の質の向上(子どもの最善の利益の保障のために)	
<ul style="list-style-type: none"> テーマを「育ちをつなげる環境」とし、保育アドバイザー秋田喜代美先生の研修(年3回)を受ける。新たに「地域とのつながり」という視点を加え、更なる保育の質の充実を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○6月8日、9月7日、2月1日の3回の研修をとおして、写真を活用した環境の工夫、保護者とのつながり、地域とのつながり等の学びを深めた。 ○各クラスからの事例報告が、自分の担当クラスのみならず他のクラスに目を向ける機会になる。また自分の保育を振り返る機会にもなっている。 ○研修の事例報告を活かし、厚木市の幼保小交流会での公開保育や実践報告を行った。市内の保育所、幼稚園、小学校関係者に、あゆのこ保育園の保育実践を知って頂く機会となった。 △研修のあらたなキーワードとして「その子らしさ」が加わり、事例に活かすなど取り組み始めた。今後さらに深めていく必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> 「あゆのこ保育園の保育」の内容をより一層深めるために、0歳児から5歳児までの育ちのつながりを組織全体で更に意識し、保育の質の向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○4月の職員研修では、0歳から5歳児のつながりを全員で共有するため、各クラスチーフがプレゼンを行うとともに、クラス毎に保育の計画の内容について確認するなどの作業を行った。 ○チーフ全員が毎週集う「チーフ連絡会」を実施し、情報交換や意見交換などを行うことで、園としての方向性や考え方の共有、速やかな検討などが促進され「育ちのつながり」を意識することができた。 △運動面や造形面など、育ちのつながりを意識した活動内容等が更に学べると良い。保育士が外部講師から研修を受ける機会などがあると良い。
(2) 保護者支援	
<ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談会のネーミングを変え、親の「子育て力」を育てる学びの場となることを目指す。保護者同士の交流の場、子どもの育ちの姿や関わり方を学ぶ場となることを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年2回の懇談会では、保護者からの心配事や質問事項を受けた内容にし、子どもの育ちや大人の関わり方などが具体的に伝わる工夫をした。また、演習やロールプレイを取り入れ、子ども理解が更に進む工夫をした。 △「子育て力」を更に高める機会として、特に3歳未満児クラスの懇談会では、保護者同士が交流できる時間を一定時間確保することも必要。 △子どもの「今の育ち」に加えて「その後の育ち」を伝える事で、子育てに見通しを持ちやすい内容に工夫できると更に良い。

<p>・引き続き、中堅保育士が専門性を発揮し、自信を持って保護者の支援に当たれるよう、より実践的な研修等を通して、相談援助技術の養成を行う。</p>	<p>○昨年度に引き続き、12月に中堅保育士を対象とした「個別面談実践研修」を行った。実際の面談を想定し、アセスメントや実際の面談、その後の支援計画、評価などを学んだ。 △全体の保育士にも保護者への対応や支援の姿勢などを学ぶ機会が必要。</p>
<p>(3) 地域の子育て支援のさらなる充実</p>	
<p>・虐待防止に向け、育児困難感のある親の見出しと支援に引き続き注力する。新設される厚木市の療育センター等、専門機関との連携を強化し、保育所における地域子育て支援の拠点として、更に専門性を高める。</p>	<p>○5月の「地域子育て支援担当者研修」で、厚木市家庭相談課の新田氏を講師に「配慮の必要な親子のケース検討」や虐待予防に関する学びを深めた。 ○厚木市療育相談センター「まめの木」を訪問し、育児困難感のある利用者の支援について連携することを確認した。また、療育関連機関や教育委員会との連携についても学びを深めた。</p>
<p>・「子育て(療育)相談」を一層強化する。チラシなどにより周知をはじめ、困り感のある親が「ほっと」できる場所、安心して相談できる場所となるよう、体制や環境を整える。</p>	<p>○育児相談のリーフレットを新たに作成し、児童館等へ定期的に配付し、周知をはかった。 ○電話や来園しての育児相談の機会には、保健師や保育士の専門性を活かし、相談時の子どもの見守りなども丁寧に行いながら実施できている。</p>
<p>・地域の民生委員や子育てサロン等との交流を通して、研修等の協力や運営面での相談に乗るなど、地域の子育て支援に広く貢献する。</p>	<p>○南毛利地区の子育てサロン「みなみちゃん」訪問を実施した。支援が必要な利用者について、相互に連携を取りながら見守ることなどを確認した。今後も民生委員等、地域からの依頼に協力していくことを確認した。</p>
<p>・一時預かり事業との連携を強め、支援に必要な親子を丁寧に支援する。</p>	<p>○子育て支援室のスタッフが一時保育にも関わり、子育て支援担当者が情報交換を行い、支援に活かすことができた。</p>
<p>(4) 湘北短期大学保育学科と密接な連携を保ち、互恵的な協力関係を維持発展させる</p>	
<p>・「保育ボランティア」、「保育実習」等の積極的な受け入れ。湘北短期大学保育学科の優位性確保に協力する。</p>	<p>○夏季27名、冬季68名の湘北短期大学1年生を保育ボランティアとして受け入れ、現場保育士との交流会の機会を設けるなど、保育に魅力を感じてもらうための工夫を行った。 ○湘北短期大学2年生3名を実習生として受け入れ、日誌記録時間を設けるなど実習がより充実する工夫を行った。</p>
<p>その他の重点取組より</p>	
<p>(1) 安全管理</p>	
<p>・重大事故予防に力を入れ、研修等で危険要素の確認や防止に向けての取組について職員間で共有する。</p>	<p>○6月の職員会議で「安全管理について」取り上げ、死亡に関わる重大事故の予防についての学びを深め、職員間での意識共有をはかった。 △SIDSに関する知識や予防への意識を高めるため、引き続き研修や巡回等の取組を行う事が必要。 △心肺蘇生法や救急車要請等、より実践的な訓練の機会が必要。</p>
<p>・地震、火災、水害、不審者侵入、大災害等に備えたより実践的な訓練を行う。</p>	<p>○8月の職員会議で、発電機、排水ポンプ等の実践訓練を行った。また、作動手順書を作成し、職員の誰もが分かりやすく作動できる体制になった。 △災害時に職員が具体的にどのような役割を担い行動するのが理解しやすいよう「役割手順カード」の作成を試みた。更なる周知と活用訓練、改善等が必要。</p>